

TPP協定の大筋合意内容と本県農林水産業に与える影響イメージ(たたき台)⑦<野菜総括、メロン>

【園芸作物(野菜)】

【本県主要野菜のTPP合意内容と輸入状況】

品目	現行関税	TPP合意	国内生産量①(t)	県内生産量②(t)	県内シェア②/①	県内産出額(億円)	農業産出額に占める割合	輸入量③(t)	輸入シェア③/(①+③)	主な輸入先国(輸入量t)	うちTPP交渉参加国		
											輸入量④(t)	輸入シェア④/(①+③)	
すいか	6%	即時撤廃	357,500	33,800	9.5%	50	(2.2%)	726	0.2%	米国(548) メキシコ(139) 韓国(39)	米国 メキシコ	687	0.2%
メロン	6%	即時撤廃	167,600	12,600	7.5%	33	(1.4%)	28,921	14.7%	メキシコ(22,460) 米国(5,981) 韓国(474) ニュージーランド(6)	米国 メキシコ	28,441	14.5%
きゅうり	3%	即時撤廃	548,200	14,900	2.7%	39	(1.7%)	11	0.0%	米国(9) 韓国(2)	米国	9	0.0%
トマト	3%	即時撤廃	739,900	11,000	1.5%	39	(1.7%)	7,736	1.0%	米国(2,988) 韓国(3,164) ニュージーランド(982) メキシコ(169) カナダ(130) オランダ(303)	米国 ニュージーランド メキシコ カナダ	4,269	0.6%
えだまめ	(生鮮) 3%	即時撤廃	67,000	6,280	9.4%	29	(1.3%)	578	0.9%	台湾(578)	-	0	0.0%
	(冷凍) 6%	6年目に撤廃	-	-	-	-	-	70,205	-	台湾(28,764) 中国(19,813) タイ(18,616) インドネシア(3,125) ベトナム(86)	ベトナム	86	-
ねぎ	3%	即時撤廃	483,800	9,990	2.1%	24	(1.0%)	55,307	10.3%	中国(55,112) ベトナム(195)	ベトナム	195	0.0%
アスパラガス	3%	即時撤廃	28,500	1,420	5.0%	12	(0.5%)	11,741	29.2%	メキシコ(6,610) オーストラリア(2,360) ペルー(1,328) 米国(348) ニュージーランド(133) タイ(499) フィリピン(379)	メキシコ オーストラリア ペルー 米国、 ニュージーランド	10,779	26.8%
にら	3%	即時撤廃	61,400	3,000	4.9%	10	(0.4%)	不明	-	不明	不明	-	-

(生産量・輸入量：H26農林水産省野菜生産出荷統計、H26財務省貿易統計
産出額：H25農林水産省生産農業所得統計)

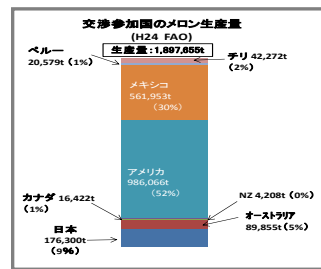
【本県主要野菜のTPP合意内容と輸入状況】

- 本県主要野菜の現行関税率は、すいか、メロンの果実的野菜と冷凍えだまめが6%、その他の主な野菜は3%であり、今回のTPP合意により、冷凍えだまめを除き、関税率は即時撤廃となる。
- TPP交渉参加国からの輸入が多い品目は、アスパラガス(輸入シェア26.8%)、メロン(14.5%)、トマト(0.6%)で、その他の品目の輸入量は極めて少ない。
- えだまめやねぎは、中国や台湾等交渉参加国以外の近隣諸国からの輸入が多い。

⇒ 交渉参加国からの輸入量が多い、メロン、トマト、アスパラガスの3品目について以下のとおり影響イメージを整理・作成。

【メロン】 (大筋合意内容：現行関税率6%→発効時に即時「撤廃」)

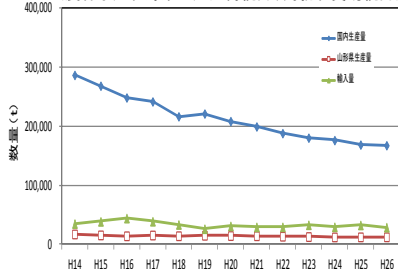
■交渉参加国の生産量



- TPP交渉参加国で植物検疫上も問題なく日本に輸出できるのは、上記の国のうち5カ国(アメリカ、メキシコ、カナダ、ニュージーランド、チリ)で、その生産量は約172万tで、アメリカ、メキシコが生産が多い。
- 日本の生産量は交渉参加国全体の10.2%。

■メロン輸入量の推移

(農林水産省野菜生産出荷統計、財務省貿易統計)



- 国内の生産量が減少する中で、輸入量は横ばいに移行している。

■輸入メロン価格の比較

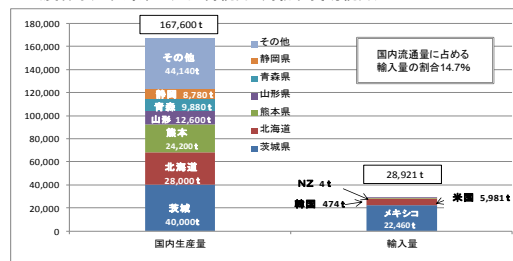
(H26 東京都中央卸売市場年報)

産地	単価(円/kg)
全体(国産+輸入)	469
山形県	305
アメリカ	207
ニュージーランド	619
メキシコ	151

- アメリカ産やメキシコ産のメロンは、カットフルーツ用としてネットのない「ハネジャー」種が輸入されている。国産品に比べ糖度が低く、品質が劣ることから市場価格は全体平均の半値以下となっている。
- ニュージーランドは、日本向けに生産し、2~3月に少量、高価格で輸入されている。

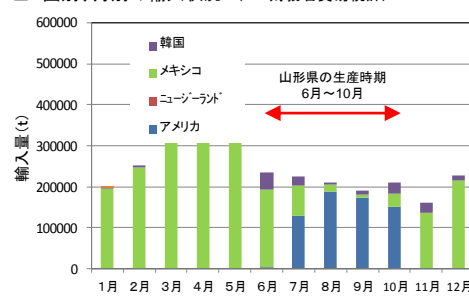
■国内生産量と輸入量(H26)

(農林水産省野菜生産出荷統計 財務省貿易統計)



- 国内の生産量は約17万tで、本県は7.5%の1.3万t。
- 輸入量は約2.9万tで、国内流通量に占める割合は約15%。メキシコからの輸入が多い。

■国別、月別の輸入状況 (H26財務省貿易統計)



- 本県の出荷時期の7月~8月の輸入はアメリカ産が多く、11月~5月の冬春期は大半がメキシコからの輸入となっている。

■輸入メロンと競合が想定されるマーケット(イメージ)

- 輸入メロンの大半は、カットフルーツの原料として周年で輸入されている。メキシコや米国産のメロンは、「ハネジャー」種で、大玉でネットがなく、本県産「アンデス」などに比べて、品質や食味は劣るため、用途や価格帯で住み分けされている。
- ニュージーランド産のメロンは、日本向けに栽培しており、2~3月に少量輸入されているが、輸送コストの関係で高価格となっている。

■関税撤廃の影響イメージ

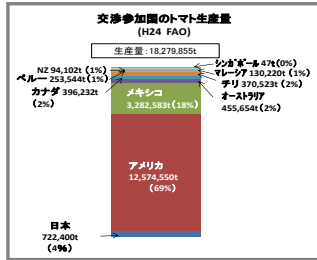
- 県産メロンは品質・食味ともに優れ、市場から高く評価されており、輸入品と住み分けされていることなどから、影響は限定的でないか？

TPP協定の大筋合意内容と本県農林水産業に与える影響イメージ(たたき台)⑧<野菜(トマト・アスパラガス)>

【園芸作物(野菜)】

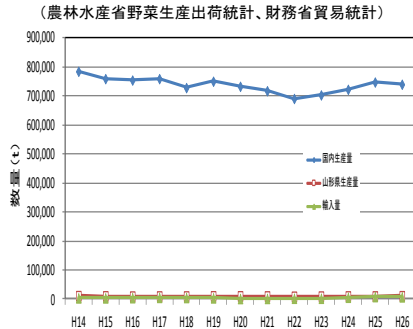
【トマト】 (大筋合意内容：現行関税率3%→発効時に即時「撤廃」)

■ 交渉参加国の生産量



○TPP交渉参加国で植物検疫上も問題なく日本に輸出できるのは、上記の国のうち5カ国(アメリカ、メキシコ、カナダ、ニュージーランド、チリ)で、その生産量は約1,756万tで、アメリカ、メキシコの生産が多い。
○日本の生産量は交渉参加国全体の4.1%となっている。

■ トマトの国内生産量と輸入量の推移



○国内の生産量は近年増加傾向にあるが、輸入量は横ばいで推移している。

■ 輸入トマト価格の比較

(H26 東京都中央卸売市場年報)

産地	単価(円/kg)
全体(国産+輸入)	382
山形県	416
アメリカ	493
ニュージーランド	507
カナダ	625

■ 輸入トマトと競合が想定されるマーケット(イメージ)

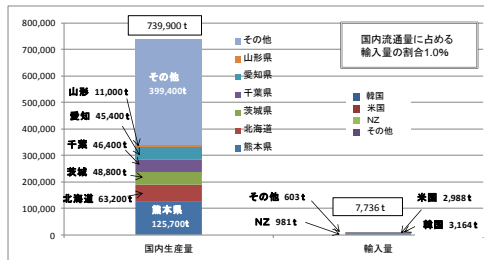
- 輸入トマトは、果肉が硬めて、ゼリーが少なく、食味が淡白であり、国内産の生食用とは品質が異なる。
- 輸入品の大半は、ハンバーガー等の加工・業務用で利用されているが、一部、首都圏の外国人客が多い量販店でも取り扱われている。
- 輸入品の価格は、輸送コストの関係で国産トマトより高価格となっている。

■ 関税撤廃の影響イメージ

- 良食味の国内産トマトが周年生産されていることから、生食用として参加国から輸入が増加することは考えにくいのではないか？
- 現行の関税率が比較的低いこと、安心・安全及び鮮度に対する国民の関心が高いこと等から、影響は限定的ではないか？

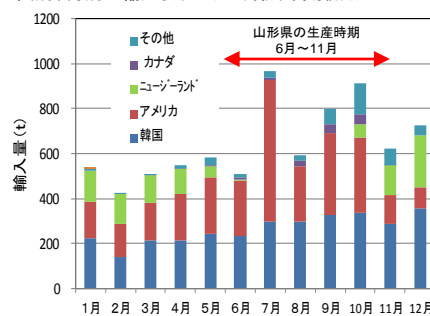
■ 国内生産量と輸入量(H26)

(農林水産省野菜生産出荷統計 財務省貿易統計)



- 国内の生産量は約74万tで、本県は1.5%の約1.1万tである。
- 海外からは約0.8万tが輸入されており、韓国、アメリカからの輸入が多い。
- また、国内流通量に占める輸入量の割合は1.0%となっている。

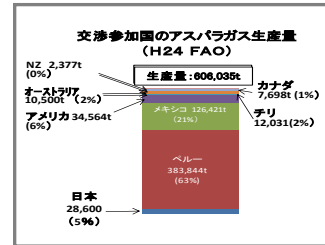
■ 国別、月別の輸入状況 (H26財務省貿易統計)



○韓国やアメリカ産は時期による変動はあるものの、周年で輸入されている。

【アスパラガス】 (大筋合意内容：現行関税率3%→発効時に即時「撤廃」)

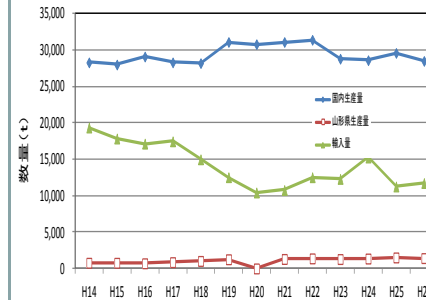
■ 交渉参加国の生産量



○TPP交渉参加国で植物検疫上も問題なく日本に輸出できるのは、上記の国すべてで、その生産量は約58万tでペルー、メキシコの生産が多い。
○日本の生産量は交渉参加国全体の5.0%となっている。

■ アスパラガス輸入量の推移

(農林水産省野菜生産出荷統計、財務省貿易統計)



○国内の生産量は近年横ばい傾向にあるが、輸入量は国内の生産量が増加してきた平成17年頃から大幅に減少している。

■ 輸入アスパラガス価格の比較

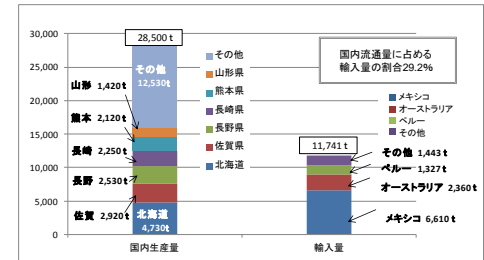
(H26 東京都中央卸売市場年報)

産地	単価(円/kg)
全体(国産+輸入)	1,018
山形県	1,039
メキシコ	666
オーストラリア	860
ペルー	972
アメリカ	803
ニュージーランド	803

- 輸入アスパラガスは、品質、食味ともに国産と同程度である。
- 輸入品の価格は、国内産より低価格で取引されている。

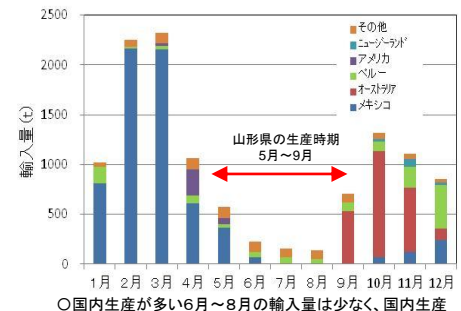
■ 国内生産量と輸入量(H26)

(農林水産省野菜生産出荷統計 財務省貿易統計)



○国内の生産量は約2.9万tで、本県は5.0%の約0.1万tである。
○海外からは約1.1万tが輸入されており、メキシコ、オーストラリア、ペルーからの輸入が多い。
○また、国内流通量に占める輸入量の割合は29.2%となっている。

■ 国別、月別の輸入状況 (H26財務省貿易統計)



○国内生産が多い6月～8月の輸入量は少なく、国内生産の少ない10月から4月に輸入が多くっており、棲み分けができていくと考えられる。
○9月～11月はオーストラリア産、1月～4月はメキシコ産の輸入が多い。

■ 輸入アスパラガスと競合が想定されるマーケット(イメージ)

- 輸入アスパラガスは、品質、食味ともに国産と同程度であるが、輸入時期は国内生産の少ない10月から4月と住み分けされている。

■ 関税撤廃の影響イメージ

- 現行の関税率が3%と比較的低いこと、安心・安全及び鮮度に対する国民の関心が高いこと、今後も国内需要の拡大が期待できる品目であること等から、影響は限定的ではないか？